7 摘心と光反射マルチで武庫一寸ソラマメのアブラムシを防ぐ

ねらいと成果

兵庫県の伝統野菜「武庫一寸ソラマメ」は有効な登録農薬が少なく、未成熟豆類への使用は極めて制限され、減農薬栽培が求められている。とくに、アブラムシはウイルスによるモザイク病を媒介するとともに、果実汚班を引き起こし被害が大きい。そこで、通常子実の肥大促進を目的として行われる摘心作業や忌避作用のある光反射マルチについて防除効果を検討したところ、アブラムシに有効であった。

内容

アブラムシは4月下旬頃から発生がみられ、その生息部位はソラマメの茎の未展開葉と半展開葉の1~2葉に集中する(図1)。そこで、アブラムシの発生状態を観察して、5月上旬に摘心作業を行い、摘心部位を袋に入れて回収した。摘心処理は展開葉3枚を対象とし、5月2日の1回摘心区とその1週間後に再度摘心する2回摘心区を設けた。栽培期間中、農薬は散布せず、アブラムシの発生状態を調査した。発生したアブラムシの種類はソラマメヒゲナガアブラムシ及びマメアブラムシであった。その結果、1回の摘心でアブラムシ虫数は激減し、2回摘心を行うと更に効果的であった(図2)。また、摘心に要する時間はおおむね8時間/10a程度であった(図3)。ソラマメの栽培では5月中下旬から収穫が始まり、

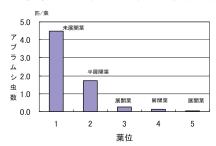


図1 アブラムシの生息葉位

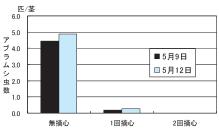


図2 摘心処理とアブラムシ虫数 調査年月日:2005年5月9日、5月12日

転流促進による子実肥大を目的として摘心作業が行われる。この作業は従来、アブラムシ対策を目的としておらず、アブラムシの発生時期とは無関係に摘心し、摘心部位を畝間に放置することが多かった。 茎先端部を摘心回収することによりアブラムシは激減し、6月上旬までの収穫期間中、生息密度を抑制することが可能となった。

一方、光反射マルチのアブラムシ忌避効果は様々な作物で認められているが、ソラマメのような茎葉が繁茂する作物での効果については明らかではない。そこで、光反射マルチとしてムシコン及びムシコンワイドマルチの効果について検討した。光反射部分の少ないムシコンマルチの効果はみられなかったが、処理部の大きいムシコンワイドマルチのアブラムシ抑制効果は認められた(図4)。

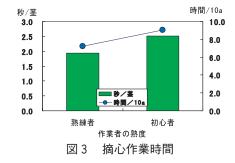
以上のことから、摘心と光反射マルチを併用する ことにより、更に大きなアブラムシ防除効果が期待 され、農薬に依存しない防除が可能になると思われ る。

普及上の注意事項

アブラムシは下位節から発生する側枝の先端にも 寄生するので、こまめに側枝を除去する。

小林 保 (農業技セ・園芸部)

(問い合わせ先 電話:0790-47-2423)



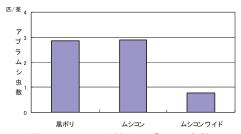


図 4 マルチの種類とアブラムシ虫数 調査年月日;2005年5月2日 アブラムシ虫数;有翅十無